

(様式第1号)

令和 元年 6月 30日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : 医療に関する領域

科 目 名 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ (認定介護福祉士養成研修)

団体名 : 一般社団法人愛知県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内

電話 : 052-202-8260

FAX : 052-202-8280

E-mail : info@aichi-kaigo.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 会長 下山久之 印

申請責任者 : 下山久之

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	2018年10月31日
申請団体名	一般社団法人愛知県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 下山久之
申請責任者職名 申請責任者氏名	会長 下山久之 下山久之
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内 Tel : (052)-(202)-(8260) Fax : (052)-(202)-(8280) E-mail <u>info@aichi-kaigo.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 医療に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ (2単位)
申請する研修名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ (認定介護福祉士養成研修)
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	医療に関する領域	
科目名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ	
(1) 提供する研修について		
研修名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ（認定介護福祉士養成研修）	
研修目標	【疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ】における基礎的な医学的知識を活用して、状態に応じた生活支援の実践者医療職等の他職種との連携について理解する。	
到達目標	<p>① 生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実践できる。</p> <p>② 症状や使用している薬から利用者の状態を分析できる。</p> <p>③ 在宅療養者が使用している医療機器の取扱い上の留意点について理解し、説明できる。</p> <p>④ 急変時等の病態等について学び、その対応について判断できる。</p> <p>⑤ 医療職等の他職種との連携について判断できる。</p>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>課題学習（15時間）</p> <p>1. 生活支援で行う医療行為や実践する際の留意点（2時間）</p> <p>○医行為と医行為ではない行為</p> <p>○意思決定支援</p> <p>○介護職員等による喀痰</p>	<p>課題学習（15時間）</p> <p>1 生活支援で行う医行為や実践する際の留意点（2時間）</p> <p>テキスト『高齢者ケアにおける介護倫理』、厚生労働省から提出された通知を読み、課題に取り組む。</p> <p>○医行為と医行為ではない行為</p> <p>・介護福祉士として行える医行為と医行為ではない行為について理解する。厚生労働省から提出された通知をもとに、介護福祉士として実施してよい医行為について理解を深める。</p> <p>○意思決定支援</p> <p>・利用者の尊厳と意思決定支援について意思決定支援については、利用者の尊厳を守る（尊重する）ことが重要であり、尊重した関りを行うにはチーム全体での調整が必要である。また療養上の意思決定支援についても、「介護福祉士倫理綱領」にも掲げられている「利用者本位・自立支援」にもつながり、職能集団としての役割・機能でもあるという点も理解する。</p> <p>テキスト『厚生労働省「喀痰吸引等研修テキスト」』を読み、課題に取り組む。</p> <p>○介護職員等による喀痰吸引</p>

<p>吸引</p> <p>2. 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点（4時間）</p> <p>3. 生活支援における急変時対応（4時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理について ・個人の尊厳・利用者・家族の気持ちの理解 ・チーム医療（多職種連携） ・清潔保持と感染予防について ・喀痰吸引：気管カニューレ内部等それぞれの実施手順 ・経管栄養：胃ろうまた腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養の実施手順 <p>2 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点（4時間）</p> <p>テキスト『ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器、材料』『症例から学ぶ！在宅医療の基礎知識』を読み、課題に取り組む。</p> <p>○在宅療養者が使用する主な医療機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者が医療機器を必要とする疾患、障害について ・吸引器、HOT、人工呼吸器を使用する上で起こり得る問題と対処方法について ・医療機器の取扱い時の留意点について ・利用者、家族との情報共有 ・チーム医療（多職種連携） <p>3 生活支援における急変時対応（4時間）</p> <p>テキスト『高齢者介護急変時対応マニュアル』、「在宅医療・介護連携推進事業について」（報告書）を読み、課題に取り組む。</p> <p>○状況把握と観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で起こり得る急変について 疾病・症候に関する知識を基盤とし、その上に急変とは何かについて理解を深める。 ・急変とはどのような状態か、急変時に観察すべきポイント <ul style="list-style-type: none"> 疾病・症候がどんな疾患と関連があるか、また体調の急変を見分けるための目安についても理解を深める。 <p>○急変時の判断とその対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職として急変時にどのような対応が求められるか ・多職種連携につなげる視点を得る。
---	---

<p>4. 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 (3時間)</p>	<p>4 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 (3時間)</p> <p>テキスト『介護スタッフのための安心！薬の知識第2版』、『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』を読み、課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者に多い病気について <ul style="list-style-type: none"> ・疾患・障害についての知識 ○処方される薬について <ul style="list-style-type: none"> ・どの疾患にどのような薬が処方されるか ○薬の副作用について <ul style="list-style-type: none"> ・飲み合わせ、食べ合わせ等、薬によって禁忌となる事柄についても理解する。 ・生活支援をする上で、利用者の日常生活に影響を及ぼす副作用について理解する。 ○アドヒアランス <ul style="list-style-type: none"> ・利用者がどのように治療方針の決定に参加していくのか、具体的な事例を通し理解する。 ○誤嚥時の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥したとどのように判断するのか、観察すべきポイントや留意事項 ○多職種連携の視点
<p>5. 主治医やかかりつけの薬剤師等との連携 (2時間)</p>	<p>5 主治医やかかりつけの薬剤師等との連携 (2時間)</p> <p>テキスト『介護スタッフのための安心！薬の知識第2版』、『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』を読み、課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主治医やかかりつけ薬剤師と薬局の役割について <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムにおける介護職に求められる役割等 ○観察、記録、情報共有のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・薬の効果や体調の変化を見て薬の調整・管理を薬剤師は行っているため、日々の利用者の変化を情報共有することが重要となる。介護職の役割と情報共有の方法について理解する。

<p>集合学習（15 時間）</p> <p>1. 生活支援で行う医行為や実践する際の留意点（2 時間）</p> <p>2. 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点（4 時間）</p>	<p>集合学習（15 時間） （1 日目）</p> <p>8：45～9：00 オリエンテーション 9：00～10：30 担当：武田</p> <p>1 生活支援で行う医行為や実践する際の留意点（2 時間。ただし1時間を45分として換算する） テキスト『高齢者ケアにおける介護倫理』、厚生労働省から出された通知の内容について、講義形式での解説後、自職場の状況に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。 ○医行為と医行為ではない行為 ○意思決定支援 ○介護職員等による喀痰吸引等 ●導入講義 20 分 ●演習 30 分 ●発表 20 分 ●フィードバック講義 20 分</p> <p>10：30～10：45 休憩</p> <p>2 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点（4 時間。ただし1時間を45分として換算する） テキスト『ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器、材料』『症例から学ぶ！在宅医療の基礎知識』について、講義形式での解説後、自職場に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。 ○在宅医療者が使用する主な医療機器 ・在宅療養者が医療機器を必要とする疾患、障害について ・吸引器、HOT、人工呼吸器を使用する上で起こり得る問題と対処法 ・医療機器の取扱いの留意点 ・利用者・家族との情報共有 ・多職種連携（チームケア）</p> <p>10：45～12：15 担当：武田 ○在宅療養者が使用する主な医療機器 ・在宅療養者が医療機器を必要とする疾病・障害について ・吸引器、HOT、人工呼吸器を使用する上</p>
---	---

	<p>で起こり得る問題と対処法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の取扱いの留意点 ●導入講義 20分 ●演習 30分 ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分 <p>12：15～13：15 昼食休憩</p> <p>13：15～14：45 担当：武田</p> <p>○在宅療養者が使用する医療機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族との情報共有 ・多職種連携（チームケア） ●導入講義 20分 ●演習 30分 ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分 <p>14：45～15：00 休憩</p> <p>3. 生活支援における急変時対応（4時間）</p> <p>3 生活支援における急変時対応（4時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『高齢者介護急変時対応マニュアル』について、講義形式での解説後、自職場に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○状態把握と観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で起こり得る急変 ・急病とはどのような状況か、急変時に観察すべきポイント、疾病・症候がどのような疾患と関連があるか、体調の急変を見分けるための目安、等 <p>○急変時の判断とその対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職として急変時にどのような対応が求められるか ・多職種協働（チームケア）医療職との情報の共有、在宅療養生活に関わる専門職の連携の在り方、等 <p>15：00～16：30 担当：武田</p> <p>○状態把握と観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で起こり得る急変 ・急病とはどのような状況か、急変時に観察すべきポイント、疾病・症候がどの
--	--

	<p>ような疾患と関連があるのか、体調の急変を見分けるための目安、等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 30分 ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分 <p>16：30～16：45 担当：武田 一日目の振り返り 事務連絡、等</p> <p>(2日目)</p> <p>8：45～9：00 オリエンテーション 9：00～10：30 担当：武田</p> <p>○急変時の判断とその対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職として急変時にどのような対応が求められるか ・多職種協働（チームケア）医療職との情報の共有、在宅療養生活に関わる専門職の連携の在り方、等 <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 30分 ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分 <p>10：30～10：45 休憩</p> <p>4. 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 (3時間)</p> <p>4 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点（3時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『介護スタッフのための安心！薬の知識第2版』『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』について、講義形式での解説後、自職場の利用者等に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者に多い病気について <ul style="list-style-type: none"> ・疾患・障害について ○処方される薬について <ul style="list-style-type: none"> ・どのような疾患にどのような薬が処方されるのか ○副作用について <ul style="list-style-type: none"> ・飲み合わせ・食べ合わせ、薬によって禁忌となる事柄について ○アドヒアランス
--	--

	<p>・利用者がどのように治療方針の決定に参加していくのか</p> <p>○誤嚥時の対応について</p> <p>・誤嚥したと何で判断すれば良いのか、観察すべきポイント、対処時の留意事項等</p> <p>○多職種連携（チームケア）</p> <p>10：45～11：55 担当：武田</p> <p>○高齢者に多い病気について</p> <p>・疾患・障害について</p> <p>○処方される薬について</p> <p>・どのような疾患にどのような薬が処方されるのか</p> <p>○副作用について</p> <p>・飲み合わせ・食べ合わせ、薬によって禁忌となる事柄について</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 20分</p> <p>●発表 15分</p> <p>●フィードバック講義 15分</p> <p>11：55～13：00 昼食休憩</p> <p>13：00～14：10 担当：武田</p> <p>○アドヒアランス</p> <p>・利用者がどのように治療方針の決定に参加していくのか</p> <p>○誤嚥時の対応について</p> <p>・誤嚥したと何で判断すれば良いのか、観察すべきポイント、対処時の留意事項等</p> <p>○多職種連携（チームケア）</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 20分</p> <p>●発表 15分</p> <p>●フィードバック講義 15分</p> <p>14：10～14：25 休憩</p> <p>14：25～15：55 担当：武田</p> <p>5 主治医やかかりつけの薬剤師等との連携（2時間）</p> <p>5 主治医やかかりつけの薬剤師等との連携（2時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『症例から学ぶ！在宅医療の基</p>
--	--

	<p>6. 研修振り返り</p> <p>7. 筆記試験</p> <p>8. 事務連絡</p>	<p>礎知識『介護スタッフのための安心！薬の知識第2版』『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』について講義形式の解説後、自職場の利用者等に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○主治医やかかりつけ薬剤師と薬局の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの中での介護職の役割について理解する。 <p>○観察、記録、情報共有のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬の効果や体調の変化を見て、薬剤師は薬の調整や管理を行っているので、日々の利用者の状態を観察し気づいたことを記録に残し、情報共有を行うことが重要となる。 ・情報共有の方法について理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 30分 ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分 <p>15:55～16:10 休憩</p> <p>16:10～16:25</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研修の振り返り <p>16:25～17:25</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筆記試験 (60分) <p>17:25～17:40</p> <ul style="list-style-type: none"> ●結果発表の方法、今後の研修の流れ等
研修方法	<p>■集合学習（集合研修）15時間</p> <p>■課題学習（通信研修）15時間</p> <p>先に課題学習（通信研修）15時間を行い、その課題（レポート等）を事前に事務局に提出し、集合学習（集合研修）15時間では、課題学習で取り組んだレポートを基にグループワーク等の演習を交えて進めていく。</p>	
研修時間	30時間（集合学習として15時間、課題学習として15時間）	
修了要件	<p>課題学習における課題を提出し、集合学習のすべての時間に参加し、終了検定課題（筆記試験）で合格基準を満たしていることを確認する。ただし、やむを得ない理由で遅刻・早退・がある場合、補講又はレポート提出をもってその不足分を補う。やむを得ない事情による遅刻・早退は30分以内とし、30分を超える遅刻・早退は認</p>	

	<p>めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生活支援で行う医療行為に必要な知識を理解し、状態に応じた生活支援を実践できる ② 症状や使用している薬から利用者の状態を分析できる ③ 在宅療養者が使用する医療機器の取扱い上の留意点について理解し、説明できる ④ 急変時等の病態について学び、その対応について判断できる ⑤ 医療職等の他職種との連携について判断できる
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある ・修士課程を修了していることが望ましい ・在宅支援の経験がある医師または看護師が望ましい <ul style="list-style-type: none"> 医師：大学講師以上または学会認定専門医以上が望ましい 看護師：大学講師以上または「認定看護師」以上の資格を所持していることが望ましい
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	<ul style="list-style-type: none"> ① 「認定介護福祉概論」を修了していること ② 「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅰ」を修了していること
修了評価（習得度、研修成果）	筆記試験に合格する（試験時間60分。筆記試験。50問程度、100点満点中60点以上で合格）
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名 30名に対し講師1名、ファシリテーター1名を配置する。
開催場所（都道府県）	愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年2月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 桜華会館 (愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2)
	②
	③
(2) 講師 武田啓子 (日本福祉大学健康科学部教授)	
担当、氏名及び略歴	聖隷クリストファー大学大学院看護学研究科博士後期課程修了 博士 (看護学)
	日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科教授
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	愛知県介護福祉士会事務局 事務局長1名 事務員1名 会長・副会長1名 認定介護福祉士担当理事2名 協力員 (愛知県介護福祉士会会員) 3名
研修の企画運営に関する諸 規程	愛知県介護福祉士会研修運営に関する規程
研修管理責任者職名	愛知県介護福祉士会会長
研修管理責任者氏名	下山久之
機構問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
機構問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
機構問合先 e-mail アドレス	info@aichi-kaigo.jp
受講問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
受講問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
受講問合先 e-mail アドレス	info@aichi-kaigo.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	愛知県介護福祉士会 研修事業部
受講履歴の管理方法	愛知県介護福祉士会 研修事業部・事務局により受講路歴をパソコンにて管理する。
受講履歴の証明	科目修了ごとに修了証を発行する。
管理責任者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
管理担当者氏名	事務局長 池田久恵

認定介護福祉士研修 「疾患・障害等のある人への生活支援・連携Ⅱ」

時間	テーマ	講義・演習等	備考、留意点
(1日目) 8:45~9:00	オリエンテーション		
9:00~10:30	1. 生活支援で行う医行為 や実践する際の留意点 (担当:武田)	講義形式と演習 ○医行為と医行為ではない行為 ○意思決定支援 ○介護職員等による喀痰吸引等 ●導入講義 20分 ●演習 30分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。) ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分	テキスト『高齢者ケアにおける介護倫理』 厚生労働省から提出された通知 ※事前課題を活用し、グループワークを実施する。
10:30~10:45	休憩		
10:45~12:15	2. 在宅療養者が使用する 主な医療機器の取扱い に関する留意点 (担当:武田)	講義形式と演習 ○在宅療養者が使用する主な医療機器 ・在宅療養者が医療機器を必要とする疾患、障害 ・吸引器、HOT,人工呼吸器を使用する上で起こり得る問題と対処法 ・医療機器の取扱いの留意点 ●導入講義 20分 ●演習 30分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。) ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分	テキスト『ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器、材料』 『症例から学ぶ!在宅医療の基礎知識』 ※事前課題を活用し、グループワークを実施する。
12:15~13:15	昼食休憩		

13:15~14:45	2 在宅療養者が使用する主な医療機器の取扱いに関する留意点 (担当:武田)	講義形式と演習 ○在宅療養者が使用する医療機器 ・利用者・家族との情報共有 ・多職種連携(チームケア) ●導入講義 20分 ●演習 30分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。) ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分	テキスト『ドクターゴンの知っておきたい在宅医療の機器、材料』 『症例から学ぶ!在宅医療の基礎知識』 ※事前課題を活用し、グループワークを実施する。
14:45~15:00	休憩		
15:00~16:30	3. 生活支援における急変時対応 (担当:武田)	講義形式と演習 ○状態把握と観察のポイント ・介護現場で起こり得る急変 ・急病とはどのような状況か、急変時に観察すべきポイント、疾病・症候がどのような疾患と関連があるか、体調の急変を見分けるための目安、等 ●導入講義 20分 ●演習 30分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。) ●発表 20分 ●フィードバック講義 20分	テキスト『高齢者介護急変時対応マニュアル』 ※事前課題を活用し、グループワークを実施する。
16:30~16:45	振り返りと事務連絡 (担当:武田)	●一日目の振り返り ●事務連絡	

(2日目)			
8:45~9:00	オリエンテーション		
9:00~10:30	3. 生活支援における急変時対応 (担当:武田)	<p>○急変時の判断とその対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職として急変時にどのような対応が求められるか ・多職種協働(チームケア)医療職との情報の共有、在宅療養生活に関わる専門職の連携の在り方、等 <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 30分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。)</p> <p>●発表 20分</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>	<p>テキスト『高齢者介護急変時対応マニュアル』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
10:30~10:45	休憩		
10:45~11:55	4. 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 (担当:武田)	<p>講義形式と演習</p> <p>○高齢者に多い病気について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患、障害について <p>○処方される薬について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような疾患にどのような薬が処方されるか <p>○副作用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み合わせ・食べ合わせ、薬によって禁忌となる事柄について <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 20分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。)</p> <p>●発表 15分</p> <p>●フィードバック講義 15分</p>	<p>テキスト『介護スタッフのための安心!薬の知識第2版』『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>

11:55~13:00	昼食休憩		
13:00~14:10	4. 生活支援における服薬管理に関する知識や留意点 (担当: 武田)	<p>講義形式と演習</p> <p>○アドヒアランス</p> <p>・利用者がどのように治療方針の決定に参加していくのか</p> <p>○誤嚥時の対応について</p> <p>・誤嚥したと何で判断すればいいのか、観察すべきポイント、対処時の留意事項等</p> <p>○多職種連携 (チームケア)</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 20分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。)</p> <p>●発表 15分</p> <p>●フィードバック講義 15分</p>	<p>テキスト『介護スタッフのための安心!薬の知識第2版』『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
14:10~14:25	休憩		
14:25~15:55	5. 主治医やかかりつけの薬剤師との連携 (担当: 武田)	<p>講義形式と演習</p> <p>○主治医やかかりつけ薬剤師と薬局の役割</p> <p>・地域包括ケアシステムの中での介護職の役割について理解する。</p> <p>○観察、記録、情報の共有のポイント</p> <p>・薬の効果や体調の変化を見て、薬剤師は薬の調整や管理を行っているので日々の利用者の状態を観察し気づいたことを記録に残し、情報共有を行うことが重要となる。</p> <p>・情報共有の方法について理解を深める。</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 30分 (レポート課題を相互に紹介し、理解</p>	<p>テキスト『介護スタッフのための安心!薬の知識第2版』『介護職が知っておきたい薬の働きとつかいかた』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>

15 : 55～16 : 10	休 憩	<p>を深めていく。自職場の利用者に即し、実際の介護現場における課題を検討していく。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発表 20 分 ●フィードバック講義 20 分 	
16 : 10～16 : 25	6. 研修振り返り (担当：武田)	●研修の振り返り	
16 : 25～17 : 25	7. 筆記試験 (担当：事務員)	●筆記試験 (60 分)	
17 : 25～17 : 40	8. 事務連絡 (担当：事務員)	●結果発表の方法、今後の研修の流れ等	